

せわやがトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

三月…人同じからず

十島村教育長 原口 英典

「年年歳歳 花相似たり
歳歳年年人同じからず」



昨年四月から早や一年。過ぎ去った日々としての一年ではなく、一粒の無駄もなく、と謂えればいいのだけれど、それでも、一年という月日が、砂時計のごとく、確かな高さとなって、また、深さとなって、積み上げられてきた日々としての一年。



きっとあなたの周りのあの人、この人は、一年前のあの人、この人ではなく、人間としての深みを刻んだ存在として映っているのでは…。そして、あなた自身も、あの人、この人から見れば、深みを帯び、変容したあなたとして観られているのでは…。

ところで、先月の地元新聞に、本村の小学6年生の子の詩が掲載された。

春よ来い

春よ来い/ルーキーの僕/弱音を吐かない中学生
心構えはしっかりと/意気込む 僕は中学生
始めの一步/山のような宿題プリント



くじけぬ僕は中学生/

心構えはしっかりと/意気込む 僕は中学生

この子は、この春、中学生となる。読んだ瞬間、この子と出会った日の顔を思い浮かべた。あれから2年。この子はこんな生き方と、それを裏付ける表現力を身に刻んでいたのだ。

痛い思いもしたであろう。転んだこともあったであろう。逃げ出したくなったこともあったろう。弱音を吐きたくなったこともあったろう…。



この子にとっての節目となる一つの時期～中学生～を迎えるにあたっての「春よ来い」という決意。

この子は、日々の親子関係の中で、どんな育ちをしてきたのだろう。父親のこの村への移住に賭けた思いと、母親の我が子への想いを、この子はどのように受け止めてきたのであろう。すごいと思う。また、学校の先生方の、この子をはじめとする小中学生への熱を込めたかかわりや寄り添いの深さの結果に感服する。

まさに、人は変わろうとすることで、確かな脱皮を遂げていくのだ。春よ来い。

【コンクール受賞】

鹿児島県小学校書写展

〈平島小学校〉
奨励賞 福德 更悠空 (小4)



第29回鹿児島県 ゆめ 立体・彫刻展

〈口之島小中学校〉
鹿児島県美育協会賞 山元 悠希 (中1)

特選 野網 風牙 (小2)

永吉 美悠 (小5)

高本 海人 (中6)

永田 征也 (中3)

入選 永吉 美怜 (小1)

西 湖萌 (小2)

永吉 美遥 (小3)

山元 柊星 (小4)

中村 拓海 (小4)

日高 裕星 (中2)



学校・地元自慢プレゼンコンテスト

〈口之島小学校〉
NEC賞 高本 海人 (小6)

【セブンアイランド図書寄贈本の紹介】



3月17日(月)、三重県在住の川北雅之様より、図書本(96冊)を寄贈していただきました。川北様は過去に中之島を訪問されたことのある方です。寄贈いただいた本は、今後、セブンアイランド図書に登録し、4月より巡回を行うことにします。

灯

シリーズ——十島の学校にやってきて
宝島小学校3年 今村 律佳

ときどき。宝島が近づくとつれ、私のきんちょうは高まり、フェリーのかん板に出ました。まだ宝島は見えません。「まもなく入港します。」アナウンスが流れると、あざやかなへき画が目飛びこんできました。小中学生や島の方々が出むかえてくれ、不安よりも楽しみな気持ちがあふりました。

去年の春、私は母と兄弟三人といっしょに宝島にひつ

こしてきました。初めは、小中学生が少ないことや、グラウンドがしばふだということにおどろきました。今ではすっかりなれ、グラウンドのはしにきくタンポポや、ピンクや黄色のお花、タモトユリ、飛んでくるちょうなどを見るのが楽しみになりました。



休み時間は、男女関係なくわとびやドッジボール、一輪車で遊んでいます。中でも、トカゲをつかまえるのは初めての体験でした。最初は気持ち悪くてつかまえられなかったけれど、よく見ると目がくりくりしてかわいいということに気がきました。「えいっ。」上からすばやく手をかぶせて、とうとうつかまえることができました。すごうれしかったです。さわると、ひんやりとつめたく、ぶによぶによしていました。

休みの日は、友達をたくさんさそって海で泳いだり、つりをしたり、赤石という大きな岩でかくれんぼをしたりします。

島の方々はやさしく、つりスポットや貝の取り方を教えてくれたり、サンスベリアやとれたての魚、大根、バナナ、ドラゴンフルーツ、とうもろこしなど、たくさんくださいます。

これからも、友達や島の方々とたくさん自然とふれ合いながら、楽しい思い出を作っていきたいと思います。

絆

シリーズ——山海留学生として学ぶ
楽しかった中之島

吉岡 和音 現在中2年生<鹿児島市>(中之島小)

私は三年生の三学期から中之島に住んでいます。私が中之島に来たいと思ったのは、二年生の時です。私の兄が先にりゅう学生として来ていて、その運動会に来たときでした。私はその運動会の一週間ぐらい前に、母と二人で中之島にやってきました。けれど兄は学校、母は母でいそがしく、私は相手にしてもらえなくて、とても暇でした。そこで、校長先生に頼んで、学校に通わせてもらいました。そうしたら、それがとても楽しかったので、私も中之島に来ようと思ったのです。

中之島に来て良かったと思うところは、友達が少ない分、けんかやいじめなどなく、みんなと仲良く遊べるところです。昼休みには小中学生一緒にドッジボールをしたり、休み時間にはこま回しやおしゃべりなどをしたりして、とっても楽しく過ごしています。だからなのか、休み時間は短く感じます。

中之島に来てびっくりしたことは、一日遠足で何時間もかけて山に登ること、校庭がしばふなこと、教室が小さいことなどです。他にも先生と子どもが一对一で授業をしていることにも驚きました。鹿児島では、一对一の授業なんて考えたこともありませんでした。こっちに来て、少ない人数で授業をしているおかげか、頭が少し良くなったような気がします。自分の苦手なところをていつ的にしてくれるのも、学力アップの原因かもしれません。

中之島には、自然や島の人たちのやさしさなど、いろいろありました。二年半という短い期間でしたが、中之

島に来て本当に良かったと思っています。母や父とはなれて暮らして、家族の大切さみやというほど分かりました。これから私は鹿児島にもどりますが、中之島で学んだこと、感じたことを大切にしていきたいと感じています。

【子どもたちの作品】南日本新聞「子どものうた」H25.11.23

友へ 宝島中学校小宝島分校3年 早川千穂子
君と過ごした小宝島 忘れられない思い出で
一緒に歩いた帰り道 今は一人で思い出す
二人の距離が近くなり 初めてわかる君のこと
今は たただだ 会いたくて
今日も君にメールしよう

十島村の小・中学校からのメッセージ ⑤

平島中学校諏訪之瀬島分校 教諭 山中 一樹

この諏訪之瀬島分校に赴任した2年間は、何気ない生徒の成長が教師である私にとって大きな励みとなり、がんばれる原動力となってきた。



例えば、勉強の苦手な生徒が「ここどうするの?」とわからない問題を聞く姿を最近になって見かけるようになったので、何とも言えないうれしさがこみ上げてきた。

また、うまく物事がいかなくて暗い表情だった児童がふとしたことでうまく対応して満面の表情を見せてくれるとほっとした。さらに、「やった」と私立高校の合格発表に声を弾ませる生徒たちの姿は何事にも代えがたい最高の光景だった。

何気ない子どもの成長を感じる事ができる職に就いて15年にもなるが、未だに本当に自分の言動はこれでよかったのかと自問自答の毎日である。あのとき最善を尽くしたか、わが子以上にその子に情熱を注げたかなど。



この分校に赴任して悩みや苦しみも何気ない児童生徒の成長が私を救ってくれ、私の成長を支えてくれたと思う。この成長は職員、保護者、島民の方々そして何よりも児童生徒のおかげであることを決して忘れてはいけないと思う。成長の歩みをとめることがないようにこれからも教職に一所懸命に励みたい。

教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ



毎日、教育活動に邁進されている教職員のみならず、お疲れ様です。早いもので今年も別れの時期がやってきました。3月いっぱい十島を去られる先生方、本当にご苦労様でした。残られる先生方、これからも十島の児童生徒のために一緒に情熱を注ぎましょう。